

1 研究テーマ

自分や集団の考えを発展させる学び合いの授業の工夫
— 第 5 学年音楽科の歌唱指導を通して —

2 テーマ設定の理由

(1) 今日の課題から

小学校音楽科の歌唱・器楽では、「曲想を生かした表現を追究し、このように表現したいという思いや意図をもって歌う・楽器を演奏する」学習を大切にしている。曲想を生かした表現を追究したり、音楽を聴いて楽曲の良さを追究したりする学習過程を工夫することにより、子どもの感性を高めるとともに、思考力・判断力・表現力等を高めていくことが求められる。

これらは、音楽科の特質に即した課題を解決する学習と考えることができる。課題を追究する学習過程において、友達と一緒に学び、考えを交流し、共感・共有しながら、音楽表現の質を高めていくことが期待されている。

(2) 児童の実態から

第 5 学年の児童は、音楽の学習を楽しみにしており、意欲的に活動している。歌唱においては、多くの曲に親しみ、歌えるようになることで満足感をもっている。しかし、そこには、「このように表現したい」「こんなふうに歌ってみたい」という思いをもつことなく歌っていたり、楽譜に書いてあるから、という理由だけで音楽表現をしたりしている児童も少なくない。

そこで、課題解決を図るための学習過程を工夫することにより、自分の思いや意図をもって表現し、今後続いていく音楽学習において、興味・関心をもち、主体的に取り組もうとする児童を育成することができると考える。

3 研究のねらい

歌唱指導において、自分や集団の考えを出し合い、発展させる学び合いの工夫を探ることにより、思いや意図をもって音楽表現する児童を育てる学習指導の在り方を究明する。

4 研究の仮説

楽曲の特徴を児童が把握できるようにすること、児童同士の協働的な取り組みを充実させること、また、音楽活動と言語活動の往還を図りながら学習を進めることによって、自分や集団の考えを発展させ、学び合い、課題を解決する能力を身に付けることができるであろう。

5 研究の内容

自分や集団の考えを発展させる学び合いを深めるために、本研究では、フラッシュカードと付箋紙、拡大楽譜を活用することとした。

(1) 音楽の言葉の引き出しを作るために～フラッシュカードの活用(資料1)

鑑賞の場面ではもちろん、歌唱曲や器楽曲でも感じたことや気付いたことを書く機会が多くある。しかし、何も引き出しのないところに「書きましょう」と投げかけても、いろいろなことに気付いて書くことができる児童は少ない。

これまでは、模造紙に大きく例を掲げていた。このやり方でも効果があると感じていたが、本研究では、フラッシュカードを用い、短い時間で多くの言葉を唱えることとした。



写真1 フラッシュカード

カードの例

- ・ 明るい ・ せまる ・ 力強い
- ・ はげしい ・ 急に ・ 不安な
- ・ なめらか ・ あまい ・ 深い
- ・ 輝かしい ・ 消えるような

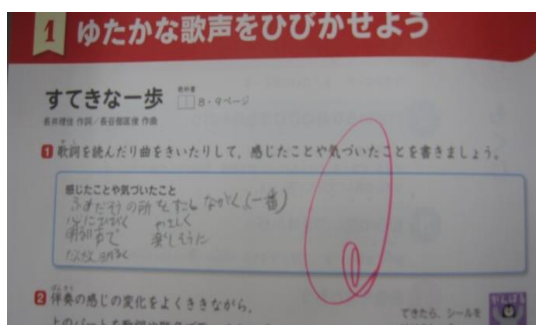


写真2 フラッシュカード活用直後の「曲を聴いて感じたこと、気づいたこと」のノートへの記入

ふみだそうの所をすこしながく
(一番)
心にひびく
やさしく
明るい声で楽しそうに
だんだん明るく

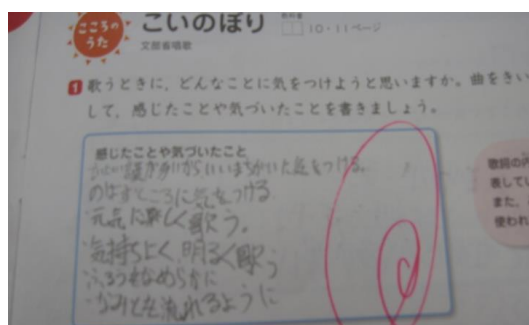


写真3 活用2週間後「曲を聴いて感じたこと、気づいたこと」のノートへの記入

言いにくい言葉が多いからいいま
ちがいに気をつける
のびすところに気をつける
元気に楽しく歌う
気持ちよく明るく歌う
ふるうをなめらかに
なみとを流れるように

(2) 音楽の言葉を引き出すために～付箋紙の活用

教材の音楽ノートには、「感じたことや気付いたこと」を書く枠が設けられており、学期初めにはそこに記入させていたが、5月から付箋紙を活用して曲を聴いた感想を書くこととした。

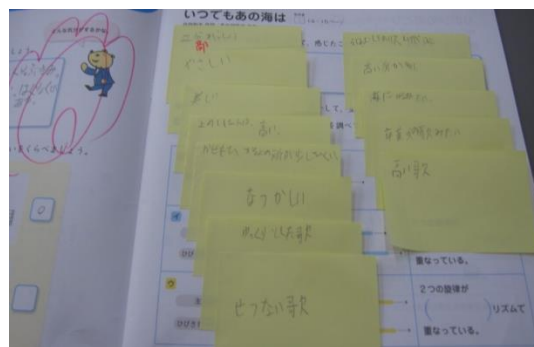
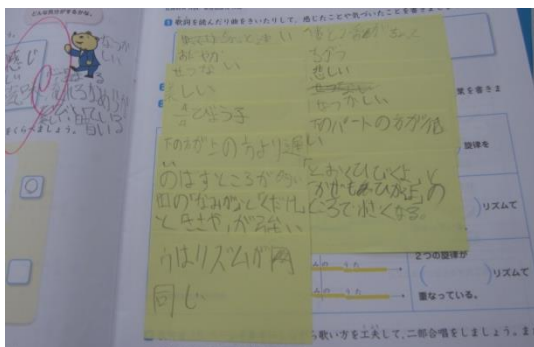


写真 4, 5 「曲を聴いて感じたこと, 気付いたこと」付箋紙を活用して

1 番と 2 番がちょっとちがう
 おだやか, なつかしい
 せつない, 美しい
 美しい, ちょっと速い
 4/4 びょうし
 下の方が上の方より遅い
 のぼすところが多い
 イの「なみが」と「くだけ」と「さ
 さや」が強い
 ウはリズムが同じ
 「とおくひびくよ」「かぜもひか
 るよ」のところで小さくなる

二部合唱
 やさしい
 美しい
 上のパートは高いかぜもひか
 るよのところが少し低い
 なつかしい
 ゆっくりとした歌
 せつない歌
 高い歌, 高いところが多い
 卒業式の歌みたい
 海にいるみたい
 ウは上と下のリズムが同じ

(3) 自分の考えを集団に活かし, 学び合いを深めるために～拡大楽譜の活用
 自分の思いや意図を書いた付箋紙を拡大楽譜に貼ることにより, それぞれの考
 えを集約したり, 話し合ってよりよい表現に作り上げていけるようにする。



写真 6 付箋紙の集約



写真7 パート練習（付箋紙をもとにした話し合い）

(4) 音楽活動と言語活動の往還—アルトのパート練習より

自分たちの思いを表現するために、歌唱と話し合いとを交互に行うようにした。児童達は、「イは、波だから、追いかけるように歌った方がいい。」「強く歌おう。」と、歌い出すが、途中で、「でも、ここはソプラノの後から歌うから、ソプラノより大きくなならないように歌わないと、はみだしちゃう。」「じゃあ、少しだけ弱く歌おうか。」と、話し合いながら歌い方を決めていっていた。

6 授業の実際

題材名 いろいろな音のひびきを味わおう（第5学年）

(1) 題材設定について

4年生の「4. せんりつの重なりを感じ取ろう」と「いろいろな音のひびきを感じ取ろう」の題材が統合され、発展したこの題材では、歌声やいろいろな楽器の音が重なり合うそれぞれのひびきを味わい、それを生かして演奏の仕方を工夫する活動を中心に学習していく。中学年までに学習してきたいろいろな楽器の音色や音が重なる響きの美しさ、さらに、旋律の重なり方の違いが生み出す曲想を感じ取りながら、音の重なり合いに焦点を当てていく。

(2) 思いや意図をもって表現することについて

今回は、曲の雰囲気や旋律の違いなど、気付かせたいポイントを付箋紙を活用することによって、誰もが自分の考えをもてるようにしたい。また、付箋紙を分類することにより、曲の雰囲気についてなのか、歌詞についてなのか、旋律が生み出す曲の特徴なのか、などをはっきりさせ、具体的にどう表現に結びつけるかを考えさせたい。

(3) 学び合いの活動について

自分の考えと友達のことを集約する時にも、付箋紙を活用することにより、共通点や違いをはっきりさせるようにする。そして、よりよい表現ができるように考えを出し合う活動と、表現する活動を往還することにより、一番自分の思いや意図にふさわしい表現方法を思考判断して、演奏させるようにしていきたい。

(4) 学習指導案

題材 いろいろな音のひびきを味わおう

教材 「いつでもあの海は」

1 目標 歌声が重なり合うひびきを感じながら歌う

2 主な〔共通事項〕

音色，リズム，旋律，音の重なり，音階，調，拍の流れ，反復，問いと答え

3 題材について

本題材は，学習指導要領 A 表現（1）歌唱イ「歌詞の内容，曲想を生かした表現を工夫し，思いや意図をもって歌うこと」に関する内容である。歌声の重なり合う響きの特徴や違いを感じ取りながら，思いや意図をもって表現したり聴いたりし，全体のバランスに気を付けながら演奏できるようにすることがねらいである。

児童はこれまでに，様々な楽器の音の特徴や音色の違いを感じ取ったり，音の組み合わせ方による響きの違いなどに気付いたりしながら表現を工夫する活動を行ってきた。

本題材では，これまでの経験を踏まえて，自分の思いや意図をもって表現し，旋律が重なり合うよさを感じながら演奏できるようにさせたい。

4 題材の目標

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
旋律の重なり合う響きに関心をもち，曲にふさわしい音楽表現を工夫して歌う学習に主体的に取り組む。	互いの声や旋律の重なりを聴き取り，全体の響きが変化していく面白さを感じ取りながら音楽表現工夫し，どのように歌うかについて自分の思いや意図をもつ。	工夫を生かした音楽表現をするために必要な発声や発音，強弱などの技能を身に付けて歌う。

5 指導と評価の計画（3時間扱い）

時間	学習内容・活動	評価計画				
		関意 態	創 意 工 夫	技 能	評価規準 （評価方法）	規準到達への 手立て
1	○ 「いつでもあの海は」の演奏を聴いて，曲の感じをつかむ。	○			・「いつでもあの海は」の歌詞が表す情景や心情及び旋律や副旋律との重なり，曲の表情や味わいに関心をもっている。 （付箋紙）	○ 付箋紙に気付いたことや思ったことを1枚につき1つ書かせることにより，いろいろな視点から曲を味わうことができるよう

						にする。
2	○ 思いや意図を表現するためにどのように演奏したらよいかをパートで話し合いながら練習する。		○		・どのように工夫したらよいかを話し合い、よりよい表現のための工夫をしている。 (話し合い)	○自分の書いた付箋紙をもとに、話し合いを進められるようにする。
3 (本時)	○ パートで話合ったことをもとに、よりよい表現に近づけるように全体で話し合いながら合唱する。			○	・工夫したことをもとに歌っている。 (聴取)	○拡大楽譜に書かれていることに注目させ、どのように曲を仕上げていくかを焦点に話し合いができるようにする。

6 本時の指導

(1) 目標

○ 曲の特徴を生かすように工夫したことをもとに合唱しよう。

(2) 準備 付箋紙 拡大楽譜

(3) 展開

学習内容・活動	指導上の留意点・評価
1 本時の学習課題をつかむ。 ・「いつでもあの海は」を歌う。 ・楽譜に書かれていることを確認し、曲の特徴やよさについて話し合う。 「いつでもあの海は」の特徴やよさを生かした工夫をもとに合唱しよう。 2 よりよい演奏を目指して、パート練習をする。 [予想される発言] 《ソプラノ》 旋律…やさしく歌う。 声を響かせて歌おう。 高くなるところは、大きくふくらませるように歌おう。 《アルト》 旋律…ウは、追いかけるように歌おう	・前時を振り返り、本時の課題意識と意欲をもたせるようにする。 ・特にどのようなことに注目して歌いたいか、拡大楽譜への記入や貼った付箋紙をもとに意見を出させるように促す。 ・必要に応じて、付箋紙に書かれていることを紹介する。 《ソプラノ》 ・フレーズの始めをはっきりさせることやピッチについて、助言する。 ・イは、出だしがソプラノだけなので、どのように歌ったらよいか、話し合えるようにする。 《アルト》 ・イの後から追いかける旋律は、どのよ

- 。 「はげしく」だから、強く歌おう。
- 3 全体で合唱する。
 - ・ よりよい表現にするために、話し合いをする。
 - 〔予想される発言〕
 - 旋律
 - ・ アの部分は、全員そろえて歌う。
 - 音の重なり
 - ・ イは、アルトは、ソプラノを追いかけるように歌おう。
 - ・ ウは、二つの旋律のリズムが同じだから、相手のパートを意識して歌おう。
- 。
 - ・ 2番は、歌詞の内容が違うから…。
- 4 仕上げの演奏をする。
 - ・ 演奏する。
 - ・ 録音を聴き、感想を述べ合う。
- 5 本時の学習を振り返る。
 - よりよい表現で歌うことができたか。
- 。

うに歌いたいかな、しっかり話し合えるようにする。

- ・ 低い音を丁寧に出すように助言する。

・ 全体練習では、それぞれのパートのバランスはどうか、イの追いかける部分を自分たちの思いの通りに歌えているかを確認し、話し合いと歌を往還しながら、曲を完成させていくように助言する。

曲の特徴やよさを生かして工夫したことをもとに歌うことができたか。(聴取・技能)

・ 録音し、演奏を客観的に聴けるようにする。

・ ふり返りカードに記入させ、次時への学習の意欲につなげる。



写真 8 全体練習（よりよい表現のための話し合い）



写真 9 合唱

8 研究の成果

（１）言葉での表現力の向上

フラッシュカードを活用したこと，付箋紙を活用したことにより，自分の思いや意図を言葉で表現できる児童が増えた。似ているようでもニュアンスが少し違う場合も一人一人が自分の言葉で表現することができた。また，感じたことや気付いたことを，曲の雰囲気ばかりに偏ることなく，楽曲の特徴，旋律の動きや曲の構成などについてなどにも書くことができる児童が多くいた。

（２）学び合い，課題を解決する能力の向上

拡大楽譜とそれぞれが書いた付箋紙を集約することによって，学びの進み具合が目で確認できた。友達の書いた意見を取り上げて歌っては，またすぐに話し合いをすることができた。音楽活動と言語活動の往還を図りながら学習を進めることができたことによって，自分や集団の考えを発展させ，学び合い，課題を解決する能力が向上した。

（３）児童の感想から

A 児

イをなめらかに歌うことができた。波が追いかけるように歌えた。

B 児

海の波をあらわせるようにがんばりました。

C 児

アルトは，波が追いかけるけれども，エコーだからソプラノより強くないように気をつけて歌いました。

D 児

ぼくは，この曲を思ったように歌えました。この曲がもっと好きになりました。かんせいした！

9 今後の課題

(1) よりよい付箋紙の集約の方法

本研究では，拡大楽譜にどんどん貼り付ける形で付箋紙を活用したが，今後は，付箋紙の集約の仕方にも工夫をしたい。曲想に関するもの，曲の構成に関するものなど，分類しながら集約できるようにしたい。また，児童が付箋紙に慣れてきたら，色別に感じたことを書かせることも取り入れたい。

(2) 学びの質の向上

本研究では，歌唱表現に関する研究であったので，今後は器楽，鑑賞でも様々な場面でフラッシュカード，付箋紙を有効活用し，学びの質を高めていきたい。